子どもの子どもによる子どものためのHOTTATE（ほったて）小屋！～子どもが子どもを誘って、みんながレベルアップ！～

国立市

プロジェクト実施者　NPO法人くにたち農園の会

実施日時

令和６年　11月17日（日）９：00～15：00
令和６年　12月22日（日）９：00～15：00

実施場所

畑の家・みんな畑、下谷保地域防災センター

プロジェクト概要

地域の伐採木を活用した木工、自分の好きなことやモノを形にしたお店屋さん遊び、畑のお手入れや野菜の苗植えや地域の植物を使った草木染め体験を行います。 子ども達自身が中心になって企画から運営まで行うことで、子ども主体の子ども達同士が楽しみながら成長する場を作り出します。

イベント詳細

コロナ禍で一度途絶えかけてしまった多世代が交流する機会を、子ども達が中心となって、自分の好きなことやモノを形にしたお店屋さん遊び（だれでも「遊び」）をします！当日は、子ども達が考えた当日だけ使える架空のおかね「くれべぇ」をツールに遊びを繰り広げます。また地域の伐採木を活用した木工遊び（はいざい「遊び」）、野菜の苗を大切に畑に植え育てる体験、地域の植物を使った草木染め体験（しぜん「遊び」）を企画しています。子ども達が、地域の子ども、大人を招待することを考えて、どうやったら楽しめる場になるか、工夫する・考える・実行する過程を大切にして遊び、参加者が次回の運営者になっていく循環を作り出していきます。ぜひ、遊びにいらしてください。

プロジェクトへの想い

「いらっしゃいませ！ 3くれべぇ(架空のおかね）です！」子ども達のお店が立ち並び、もう、そんな声が響き合いそうな予感です！私たちの地域、国立の谷保は、お隣さん同士の助け合いがあり、人との距離が近い地域であることが特徴です。温かい地域性を活かし、子ども達が自主的に“やってみよう！”を育み、土や空と仲良く、遊びが学びに繋がり、田畑の空間で新しいチャレンジの奇跡を巻き起こしています。今回のプロジェクトでは、「自由」「好き」を日常的に表現している子ども達が中心になって、谷保弁で“あげる”という意味のくれべぇ通貨を流行らせ、地球にも優しいイベントをみんなで成功させましょう。

子どもの子どもによる子どものためのHOTTATE（ほったて）小屋！～子どもが子どもを誘って、みんながレベルアップ！～

子供の感想

・小学3年生：ずっとつづいてほしい。
・小学4年生：楽しかったです。さいしょに足りない道具があってピンチになったけど、さいごたくさん人がきてよかったです。
・小学5年生：大はんじょうできた！！
・小学5年生：色々な自然の体験ができてたのしかった。
・小学5年生：めーっちゃたのしー！！
・中学生：たくさん人が、集まってくれて、感動した！！
・中学生：子ども達の笑顔が多くて良いイベントだった。

保護者の感想

・子どものみならず、親もクラフトなど夢中で遊びました！楽しかった！
・お客さんだけでなく自分でお店やアルバイトをすることができ素晴らしい企画だと思いました。気軽に参加できるのがまたとても良いです。
・楽しかった！また次回も絶対行きたいと言っていました。お手伝いをするとくれべぇをもらえる、役にたてる、挑戦できることがとても楽しかったそうです。
・地域でこのようなイベントがあるのはとても嬉しく思います。
・初めて参加させていただきました。子どもたちみんな、積極的に活動していて、自信に満ち溢れているように見えて、とても可愛かったです。とても楽しかったです。ありがとうございました！
・物を作ったりお店屋さんごっこをしたりは家庭でやっても楽しい遊びですが、それを初めて出会う人たちに向けてやると全く違うものになるのだという事を感じました。遊びが学びへと進化する瞬間であったと思います。最初は何も知らないお客さんに対する商品の説明方法に戸惑い、想定した通りに進まない事に焦ったりもしていましたが、修正を繰り返し次第に接客もお手のものに。順応性の高さはやはり子供ならではだなと感心しました。

主催者の感想

今回のプロジェクトを終え、改めて地域の包容力と今後への期待を強く実感しました。
子ども達が自ら企画し、地域の方々と力を合わせて作り上げた“遊び”の場は、予想を超える学びと発見の連続でした。特に、オリジナル通貨「くれべぇ」やコミュニティ畑を活かした“お店屋さん遊び”では、子どもの創造力やコミュニケーション力が存分に引き出され、大きな手応えを得ています。さらに、木工職人や畳職人、中学生プレーリーダーによる事前準備や当日のカフェなど、多彩な人々が協働することで地域のつながりが深まり、距離の近い関係性を再認識する機会ともなりました。
その一方で、参加者数や周知不足などの課題も見え、より多世代が気軽に参加できる運営体制の強化が必要だと感じました。また、安全管理やフォローアップの仕組みづくりなど、改善すべき点も少なくありません。 今後検討していきたい「はたけんぼマルシェ」（仮）では、今回の経験を踏まえ、季節ごとの魅力を取り入れながら、子ども達が安心して挑戦でき、大人も“のんびり”楽しめるイベントとして継続したいと考えています。
これまでの経験を糧に、新たなアイデアや視点を積極的に取り入れて、子ども達はもちろん、大人にとっても発見や喜びの多い場をさらに発展させていきたいです。地域の力をさらに育みながら、これからも子ども達と地域住民が一体となり、笑顔あふれるイベントづくりに励んでいきます。